

令和6年11月20日発行

第89号

全戸配布用

わが街 太子堂・三軒茶屋 スポットライト

発行：太子堂連合町会

ミニコミ紙編集委員会

事務局：太子堂

まちづくりセンター

電話：03-5787-6368

太子堂八幡神社

宮司 手塚 整輝

宮司として初めて迎えた令和六年度の例大祭、天候にも恵まれ昨年にも増して盛大でした。

各町会の神酒所が設けられ渡御も盛大に行われ、多くの露店が祭りを彩り、境内では和太鼓や芸能による賑わいが繰り広げられ神人和楽の二日間を無事に終えることができました。これも氏子や各町会の皆様の多大なるご奉賛、ご協力にたぐいての事と深く感謝申し上げます。



さて皆様はキャロットタワーからの展望をご覧になったことがあるかと思いますが、北西のほど近い所にお椀を伏せた様にこんもりとした森が見えます。この森は幹回り四メートルを超える大きな楠を中心に大小の樹木に囲まれた当神社の杜です。

神道ではこの樹木の緑を常若（とこわか）と呼び、生成発展・よみがえり・若返りの精神として尊びます。当神社境内を取り囲む樹木の中でも、圧倒的な存在

感を示すのが御神木の樹齢五百年とされる楠の巨木です。この神木は新年にも若葉が萌える不思議な力がありますが、長寿への樹勢保持のためと言われていた自然の力は臨機応変です。これも命の不思議、神様のお力なのかもしれません。神社信仰の原点は、瑞々しい緑を絶やさず常緑樹や特別な岩石を生命の永遠、発展を象徴するものと信じ、その前での庭上祭祀より始まりました。神道とは自然の息吹に触れ心身の蘇生を実感する、感じる宗教であると言われてます。皆様もお参りにいらした時は、この御神木から命の息吹を感じていただけたらと思います。



わが街で100年続く

お店シリーズ⑤ 理容 四代目金田屋

今から100年前の、大正12年に創業の、金田屋の三代目金田さんにお話を伺いました。三代目のお祖父様は、関東大震災が起きる1ヶ月前に、深川から太子堂に移り床屋を、お祖母様は髪結の仕事を始めました。当時、周囲はまだ家も床屋も少なかったようです。その後、震災の後、下町からの転入により、急激に人口が増加し府営住宅、公設市場、児童公園

などができ商店も立ち並ぶようになりました。

昭和2年に、現在の茶沢通りと旧道が交差する5叉路に移転しました。店の前の道は未だ砂利道だったようです。先代は若くして亡くなり、その後は職人さんが店を続け、出征兵士の散髪もしていました。

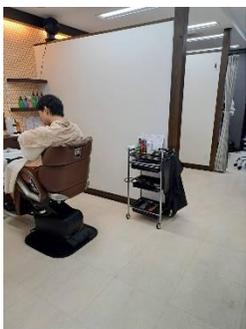
戦後に二代目が「理容カネタ」を引継ぎ、太子堂の子ども達も「こけし」のような「おかつぱ」髪形に刈ってもらっていました。

昭和48年に三代目が父と母の仕事を受け継ぎ、昔からのお客様、新しいお客様を大事に守ってきています。

11年前の平成25年には四代目になる息子さんが継ぐのを機会に、お店も新しく個々に区切られ、白と茶色の落ち着いた雰囲気になっています。髪形も毎年変わって行くので常に勉強です。今はシャンプーも石油系からオイル系にと変わり、女性のお客様にも人気があります。

三代目は、先代からの「正直に生きる」の教えを大切にしています。

(ミニコミS・N)



第58回太子堂ふれあいまつり 青少年太子堂地区委員会

会長 山崎 和則

昨年に引き続きフルバージョンでの開催となりました。焼きそば、フランクフルト、ポップコーン、ラムネ、ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、ソフトドリンク、中学生ゲームコーナー、緑陰子供会などの各コーナー全てがそろった「太子堂ふれあいまつり」が開催されました。



開催にあたっては、太子堂地区連合町会、青少年地区委員、小学校・中学校PTAの役員、おまつり委員、事務局のまちづくりセンターなど実行委員会を重ね、今回の開催となりました。

当日は天候にも恵まれて、太子堂中学校吹奏楽部の演奏、太子堂西山囃子の披露、盆踊り（太子堂音頭、東京音頭等）が行われ、来場者は小学生（幼児含む）680人などスタッフを含めて1500人を超えるたくさんの方の参加がありました。

当日は会場設営や各コーナーのスタッフとして太子堂小学校PTAの方々や地域の一人として活躍されました。さらに小学校6年生が各コーナーのスタッフとして一生懸命手伝いをして、地域の大人たちにも頼もしく映ったことと思います。